



Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services Self-Service Portal ユーザ ガイド、リリース 5.4STV3.0

初版：2016年05月06日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

概要 1

Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services について 1

Self-Service Portal について 2

Cisco UCS Director へのログイン 2

Self-Service Portal の概要 3

Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services の関連資料 4

サービス要求の管理 7

サービス リクエストについて 7

サービス リクエストのワークフロー 7

サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成 8

サービス リクエストのステータスの表示 9

グループのサービス リクエスト履歴の表示 10

サービス リクエストのキャンセル 11

グループのサービス リクエスト履歴の検索 11

グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート 11

VM ライフサイクル管理の実行 13

VM ライフサイクル管理アクションについて 14

すべての VM の表示 16

VM の電力管理 16

VM のサイズ変更 17

VM のスナップショットの管理 18

スナップショットの作成 18

スナップショットの復元 19

スナップショットをゴールデンとしてマーキング 20

ゴールデン スナップショットのマーキング解除 21

スナップショットの削除 21

すべてのスナップショットの削除 22

VM ディスクの作成	23
VM ディスクのサイズ変更	23
VM ディスクの削除	24
VM の再同期	25
vNIC の追加	25
vNIC の削除	26
VM の詳細の表示	27
OVF ファイルについて	27
OVF ファイルのアップロード	28
OVF ファイルの削除	29
VM の複製	29
イメージとしての VM の複製	34
イメージとしての VM の変換	34
vDC への VM の移動	35
vDC への VM の割り当て	39
VM クライアントの起動	40
VM の VNC コンソールの有効化	41
VNC 接続のテスト	41
VMRC コンソール アクセスの有効化または無効化	42
CD/DVD ドライブとしての ISO イメージのマウント	42
Cisco VACS Self-Service Portal の使用	45
レポートの表示	45
レポートのタイプ	46
アプリケーション コンテナの電源オン	48
アプリケーション コンテナの電源オフ	49
仮想マシンの追加	49
仮想マシンの削除	52
サービス VM のパスワードの管理	52
仮想マシンへのスタティック NAT の設定	54
ERSPAN の設定	55
ファイアウォール ポリシーの管理	57
ファイアウォール ACL ルールの表示	57

ファイアウォール ACL ルールの追加	58
ファイアウォール ACL ルールの編集	61
ファイアウォール ACL ルールの削除	61
アプリケーション コンテナの削除	62



第 1 章

概要

この章は、次の内容で構成されています。

- [Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services](#) について, 1 ページ
- [Self-Service Portal](#) について, 2 ページ
- [Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services](#) の関連資料, 4 ページ

Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services について

Cisco Virtual Application Cloud Segmentation (VACS) Services は、データセンター内の複数の仮想サービスのライセンス認証、インストール、および導入の調整を自動化して仮想アプリケーションの簡単で効率的なセットアップを可能にするソフトウェア ソリューションです。シスコ VACS は、仮想サービスの導入とプロビジョニングを簡略化するための完全にカスタマイズ可能な拡張アプリケーション コンテナの抽象化を実現します。シスコ VACS を使用すれば、拡張アプリケーション コンテナ テンプレートを定義して、それらを基礎となる仮想コンポーネントの自動セットアップとプロビジョニングを通じてインスタンス化することができます。Cisco UCS Director は、シスコ VACS ソリューションを導入、プロビジョニング、およびモニタするための管理インターフェイスを提供します。

シスコ VACS は、ファイアウォールで保護されたプライベートネットワークに仮想マシン (VM) の集合を導入するためのルールを定義した、すぐに使えるアプリケーション コンテナ テンプレートの選択肢をユーザに提供します。アプリケーション コンテナは、さまざまなワークロードを導入するため、仮想スイッチ、ルータ、ファイアウォール、その他のネットワーク デバイスを一貫した方法で設定する仮想サービスのセットです。アプリケーション コンテナ テンプレートを作成してインスタンス化すると、シスコ VACS が VM を導入して、ネットワーク、ファイアウォール、および仮想スイッチを設定し、仮想レイヤでのネットワークとセキュリティの迅速なプロビジョニングを可能にします。

Self-Service Portal について

Cisco UCS Director Self-Service Portal は、セルフサービス プロビジョニング、モニタリング、管理機能に使用できます。Self-Service Portal により、サービスのエンド ユーザに許可されたコンテナ関連の操作を実行する、VACS コンテナに対するリクエストを作成できます。

5.4STV3.0 リリースでは、アプリケーション コンテナに対するパラレルのポスト コンテナ操作はブロックされています。同時に実行できるポスト コンテナ操作はコンテナごとに 1 つのみであり、前の操作が完了するまで次の操作には進めません。



注目

- このマニュアルでは、サービスのエンド ユーザ向け Self-Service Portal についてのみ説明します。管理者向け Self-Service Portal の詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-director/products-maintenance-guides-list.html>を参照してください。
- このユーザ ガイドは、Cisco VACS Self-Service Portal で使用可能な、構成時のすべての設定について説明します。このガイドでは、ネットワーク管理者が、すべてのユーザ設定を表示するようにポータルを設定していると仮定しています。このガイドに記載されている設定が現在アクセスしている Cisco VACS Self-Service Portal の UI に表示されていない場合は、ネットワーク管理者に相談する必要があります。

Cisco UCS Director へのログイン

ステップ 1 ブラウザの [Address] フィールドに、Cisco UCS Director の IP アドレスを入力して、Enter を押します。Cisco UCS Director のログイン ページが表示されます。

ステップ 2 [Username] フィールドと [Password] フィールドにユーザ名とパスワードを入力して、[Login] をクリックします。Cisco UCS Director のホームページが表示されます。

Self-Service Portal の概要

ここでは、Cisco UCS Director を使用してアクセス可能な Self-Service Portal と Cisco VACS の機能について説明します。

図 1 : Self-Service Portal

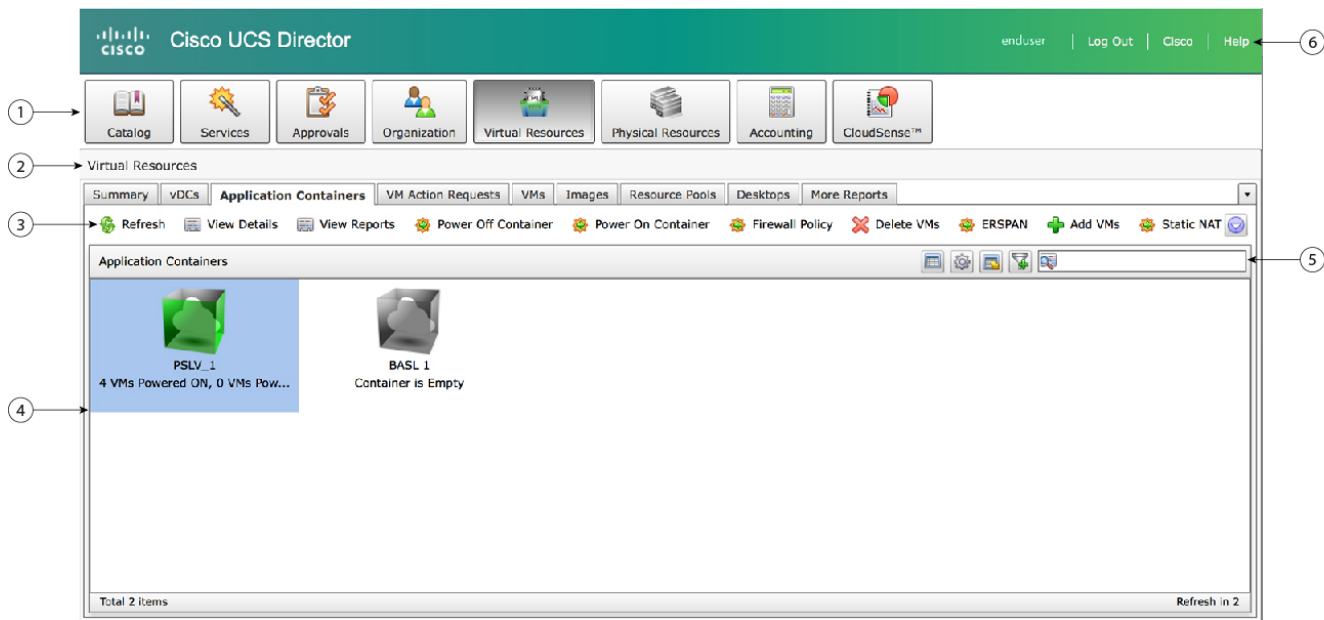


表 1 : Self-Service Portal の要素

番号	説明
1	[Menu] バーには、UCS Director Self-Service のタブとともに、Cisco VACS ソリューション インターフェイスを表示できるタブが表示されます。
2	メニューのタブに対応する詳細を表示するタブが表示されます。
3	サブセットメニューには、Cisco VACS の機能が表示されます。この機能により、コンテナ電源のオン/オフ、VMの追加と削除、サービス VM のパスワードの管理、ERSPAN とスタティック NAT 機能の設定、および VM のパスワードポリシーとファイアウォールポリシーの管理を実行できます。
4	[Application Containers] エリアには、利用可能なコンテナが表示されます。

5	<p>このサブメニューには、次の操作が可能なボタンが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 表のカスタマイズ • レポートのエクスポート • 高度なフィルタの追加 • 検索
6	<p>このサブメニューには、次の操作が可能なボタンが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ情報の表示 • Cisco UCS Director インターフェイスからのログアウト • シスコ Web ページの表示 • Cisco UCS Director に関する情報の表示 • Cisco UCS Director オンライン ヘルプの表示 • オブジェクトの検索

Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services の関連資料

ここでは、シスコ VACS コンポーネントとともに使用されるマニュアルの一覧を示します。これらのマニュアルは、Cisco.com の次に示す URL で入手できます。

[Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services のマニュアル](#)

一般情報

『*Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services Release Notes*』

インストールおよびアップグレード

『*Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Installation and Upgrade Guide*』

設定

『*Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Configuration Guide*』

ユーザ情報

『*Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services Self-Service Portal User Guide*』

Nexus 1000V のマニュアル

VMware vSphere 用 Cisco Nexus 1000V のマニュアル :

[Cisco Nexus 1000V for VMware vSphere のマニュアル](#)

Prime Network Services Controller のマニュアル

[Cisco Prime Network Services Controller のマニュアル](#)

Cloud Services Router 1000V のマニュアル

[Cisco Cloud Services Router 1000V のマニュアル](#)

Cisco Adaptive Security Virtual Appliance (ASAv) のマニュアル

[Cisco Adaptive Security Virtual Appliance のマニュアル](#)

Virtual Security Gateway マニュアル

[Cisco Virtual Security Gateway に関するマニュアル](#)

UCS Director のマニュアル

[Cisco UCS Director のマニュアル](#)



第 2 章

サービス要求の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [サービス リクエストについて, 7 ページ](#)
- [サービス リクエストのワークフロー, 7 ページ](#)
- [サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成, 8 ページ](#)
- [サービス リクエストのステータスの表示, 9 ページ](#)
- [グループのサービス リクエスト履歴の表示, 10 ページ](#)
- [サービス リクエストのキャンセル, 11 ページ](#)
- [グループのサービス リクエスト履歴の検索, 11 ページ](#)
- [グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート, 11 ページ](#)

サービス リクエストについて

セルフサービス プロビジョニング機能を使用してサービス リクエストを作成し、仮想マシン (VM)、サービス、またはアプリケーションをプロビジョニングできます。

サービス リクエストのワークフロー

サービス リクエストのワークフローは、次に示すように、いくつかの段階に要約できます。

- **開始**：サービス リクエストの開始。
- **リソース割り当て**：VM のプロビジョニングに必要なリソース。
- **プロビジョニング**：VM をプロビジョニングする行為。
- **ライフサイクル スケジュールの設定**：予定時刻および終了時刻。
- **通知**：電子メール通知。コンテナに関する情報を知らせるためにユーザーに送信される。

サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成

管理者がグループにカタログを発行すると、エンドユーザは必要なカタログを選択してサービス リクエストを作成できます。

はじめる前に

このタイプのサービス リクエストを作成するには、サービス コンテナ カタログが選択可能である必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Catalog > Service Container の順に選択します。

ステップ 2 該当するカタログをダブルクリックして、[Create Request] をクリックします。

[Create Service Request] ウィザードが表示されます。

(注) [Service] タブを使用して、サービス リクエストを作成することもできます。[Create Service Request] ウィザードに移動するには、次の手順を実行します。

- 1 Services > Service Requests > Create Request の順に選択します。
- 2 [Create Request] ダイアログボックスで [Service Container] を選択し、[Submit] をクリックして、[Create Service Request] ウィザードを表示します。これで、サービス リクエストの手順を続行できます。

ステップ 3 [Create Service Request] 画面で、次のフィールドを確認します。

名前	説明
[Catalog Type] ドロップダウン リスト	カタログのタイプは自動入力されています。
[Catalog Selection] ドロップダウン リスト	プロビジョニングされるカタログは自動入力されています。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

[Deployment Configuration] 画面が表示されます。

ステップ 5 [Deployment Configuration] 画面で、次の手順を実行します。

名前	説明
[Comment] フィールド	サービス リクエストの説明を入力します。

[Provision] ドロップダウンリスト	導入時期を選択します。 選択可能なオプションは、[Now] および [Later] です。 [Later] を選択すると、この導入の日時を選択できるようになります。
[Service Container Name] フィールド	コンテナ名を入力します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。
[Summary] 画面が表示されます。

ステップ 7 [Summary] 画面で、情報に間違いがないことを確認してから、[Submit] をクリックします。

サービス リクエストのステータスの表示

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

ステップ 1 Services > Service Request の順に選択します。

ステップ 2 サービス リクエストを選択します。

ステップ 3 [Show Details] をクリックします。

[Service Request] 画面に、サービス リクエストおよび関連するワークフロー ステップの詳細が表示されます。このページから、各ワークフロー ステップのステータスを表示します。各ステップの（色分けされた）ステータスに加えて、時間などの詳細も表示されます。

- 灰色：現在もそのステップを完了する必要があることを示します。
- 緑色：ステップが正常に完了したことを示します。
- 赤色：ステップが失敗したことを示します。ステップの下には失敗した理由も記載されます。
- 青色：ステップを完了するにはユーザから追加の入力が必要であることを示します。たとえば、このサービス リクエストに承認が定義されていた場合は、青色でサービス リクエストが承認を待っていることが示されます。

名前	説明
[Overview] セクション	

名前	説明
[Request ID] フィールド	サービス リクエスト ID 番号。
[Request Type] フィールド	リクエストのタイプ ([VM] など)
[Workflow Name] フィールド	ワークフローの名前。
[Request Time] フィールド	サービス リクエストが作成された時刻。
[Request Status] フィールド	サービス リクエストのステータス ([Complete]、[Canceled]、[Failed] など)。
[Comments] フィールド	サービスリクエストの作成中に追加したコメント。
[Ownership] セクション	
[Group] フィールド	サービスリクエストを行ったユーザが属するグループ。
[Initiating User] フィールド	サービス リクエストを開始したユーザ。

(注) 承認者は、承認が必要なサービス リクエストを [Approvals] タブで確認できません。

グループのサービス リクエスト履歴の表示

エンドユーザは、自分のグループに向けて作成されたすべてのサービスリクエストを表示できません。

メニューバーで [Services] をクリックして、[Service Requests] タブを選択します。

サービス リクエストのキャンセル

サービス リクエストを送信した後、何らかの理由がある場合にはリクエストをキャンセルできません。システムのエンドユーザは、自分が作成したサービス リクエストのみをキャンセルできません。

-
- ステップ 1 メニューで、Services > Service Requests を選択します。
 - ステップ 2 キャンセルする必要のあるサービス リクエストのエントリを選択します。
 - ステップ 3 [Cancel Request] をクリックします。
 - ステップ 4 [Submit] をクリックして、サービス リクエストをキャンセルします。
-

グループのサービス リクエスト履歴の検索

エンドユーザは、各自のグループのリクエスト履歴を検索できます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

-
- ステップ 1 メニューバーで、Services > Service Request タブを選択します。
 - ステップ 2 検索フィールドに、テキストまたはサービス リクエスト番号を入力します。
(注) 条件はいずれかのカラムの任意のテキストにすることができます。
-

グループのサービス リクエスト履歴のエクスポート

すべてのグループまたは特定のグループのサービス リクエストのレポートを表形式でエクスポートできます。

はじめる前に

サービス リクエストを作成します。

-
- ステップ 1** メニュー バーで、Services > Service Requests の順に選択します。
- ステップ 2** [Export Report] アイコンをクリックして、サービス リクエストのレポートを生成します。
レポートは PDF、CSV、または XLS 形式でエクスポートできます。
-



第 3 章

VM ライフサイクル管理の実行

この章は、次の内容で構成されています。

- [VM ライフサイクル管理アクションについて, 14 ページ](#)
- [すべての VM の表示, 16 ページ](#)
- [VM の電力管理, 16 ページ](#)
- [VM のサイズ変更, 17 ページ](#)
- [VM のスナップショットの管理, 18 ページ](#)
- [VM ディスクの作成, 23 ページ](#)
- [VM ディスクのサイズ変更, 23 ページ](#)
- [VM ディスクの削除, 24 ページ](#)
- [VM の再同期, 25 ページ](#)
- [vNIC の追加, 25 ページ](#)
- [vNIC の削除, 26 ページ](#)
- [VM の詳細の表示, 27 ページ](#)
- [OVF ファイルについて, 27 ページ](#)
- [VM の複製, 29 ページ](#)
- [イメージとしての VM の複製, 34 ページ](#)
- [イメージとしての VM の変換, 34 ページ](#)
- [vDC への VM の移動, 35 ページ](#)
- [vDC への VM の割り当て, 39 ページ](#)
- [VM クライアントの起動, 40 ページ](#)
- [VM の VNC コンソールの有効化, 41 ページ](#)

- [VNC 接続のテスト, 41 ページ](#)
- [VMRC コンソール アクセスの有効化または無効化, 42 ページ](#)
- [CD/DVD ドライブとしての ISO イメージのマウント, 42 ページ](#)

VM ライフサイクル管理アクションについて

ユーザは、管理者によって許可された、プロビジョニング後のライフサイクル管理アクションを実行できます。また、グループの下でサービスリクエストを使用して、プロビジョニングされた仮想マシン (VM) の全リストを表示することもできます。特定のグループに属するすべての VM が表示されます。管理者は、こうした管理アクションのうち、ユーザに許可するアクションを決定します。



注目 次の VM ライフサイクル管理アクションのいずれかを実行した後は、VM の最新状態などの関連情報を取得するために VM の同期操作を実行することが重要です。

実行可能な VM ライフサイクル管理アクションは、次のとおりです。

- 1 VM の電源管理
 - Power On
 - Power Off
 - Suspend
 - Standby
 - Reset
 - Reboot
 - Shutdown Guest
- 2 VM のサイズ変更
 - Resize VM
- 3 VM のスナップショット管理
 - Create Snapshot
 - Revert Snapshot
 - Mark Golden Snapshot
 - Delete Snapshot
 - Delete All Snapshots
- 4 VM のディスク管理

- Create VM Disk
- VM Disk Resize
- Delete VM Disk
- VACS Add vNICs
- VACS Delete vNICs
- UCSD Add vNICs
- UCSD Delete vNICs



(注) UCSD vNIC の追加や削除はできません。

5 VM のネットワーク管理

- VM Resyn
- Upload OVF files
- Delete OVF files

6 VM コンソールの管理

- Launch VM Client
- Configure VNC
- Unconfigure VNC
- Test VNC
- Enable/Disable VMRC Console

7 VM 複製とテンプレートの管理

- Clone
- Clone VM as Image
- Convert VM as Image
- Move VM to VDC
- Assign VMs to VDC

8 CD/DVD としての VM ISO 管理イメージ

- Mount ISO Image as CD/DVD Drive

すべての VM の表示

すべての VM を表示する機能を使用すると、すべての VM と VM ID、ホスト名、IP アドレス、電源の状態などの詳細が表示されます。

- ステップ 1** メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2** 利用可能な VM のリストから該当する VM を選択して、その VM に対して利用可能な管理アクションを表示します。
- (注) VM に対する管理アクションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。

VM の電力管理

VM の電源機能の管理には、次のアクションが含まれます。

アクション	説明
Power On	VM の電源をオンにします。
Power Off	VM の電源をオフにします。
Suspend	VM を中断状態にします。
Standby	VM をスタンバイ状態にします。
Reset	VM のハードリセットを実行します。
Reboot	VM のソフトリブートを実行します。
Shutdown Guest	VM 上のゲスト OS をシャットダウンします。



(注) これらのオプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

- ステップ 1** メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2** 該当する VM を選択して、[Power On] をクリックします。
[VM Task] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM Name] フィールド	VM の名前。
[Task] フィールド	選択した電源管理タスク。
[Comments] フィールド	必要に応じて、コメントを入力します。
[Schedule Action] フィールド	VM の電源を今すぐオンにするか、特定の日にオンにするかを指定します。

ステップ3 [Proceed] をクリックします。

(注) これらの手順を繰り返して、その他の電源管理アクションを完了します。

VM のサイズ変更



(注) VM の [Resize VM] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ2 該当する VM を選択して、[Resize VM] をクリックします。

ステップ3 [Resize VM] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM Name] フィールド	選択した VM の名前。
[Current Allocated CPU] フィールド	VM が使用している割り当て済み CPU の数。
[Current Allocated Memory (GB)] フィールド	VM に割り当てられているメモリ容量。
[New CPU Count] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから必要な CPU を選択します。

名前	説明
[New Memory] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから必要なメモリ容量を選択します。

ステップ 4 [Resize] をクリックします。

VM のスナップショットの管理

システムの障害や誤作動からのリカバリの際に、復元ポイントのスナップショットを作成して管理できます。復元ポイントは、ある時点での VM の完全な状態です。スナップショットを適宜に作成して、VM の現在の状態を保持するようにしてください。たとえば、潜在的なリスクのあるシステム操作を実行する前には、安定した状態の VM のスナップショットを作成しておきます。複数のスナップショットを作成しておく、VM スナップショットのサマリーレポートを表示して、将来使用するために保持しておくスナップショット（ゴールドスナップショット）を決定できます。ゴールドスナップショットは削除できません。



(注) VM に対する VM スナップショットのオプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。

スナップショットの作成

この機能では、すべての VM のリソースの現在の状態のスナップショットを作成します。特定のスナップショット（状態）に戻すこともできます。



(注) [Creating Snapshots] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Create Snapshot] をクリックします。

[Create Virtual Machine Snapshot] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Snapshot Name] フィールド	スナップショットの名前。

名前	説明
[Snapshot Description] フィールド	スナップショットの説明。
[Snapshot Memory] チェックボックス	VMメモリを含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[Quiesce Guest File System] チェックボックス	<p>休止モードでスナップショットを作成するには、このチェックボックスをオンにします。ファイルシステムの休止とは、物理または仮想コンピュータのディスク上のデータをバックアップに適した状態にするプロセスです。このプロセスには、ダーティなメモリバッファをオペレーティングシステムのメモリ内キャッシュからディスクにフラッシュしたり、その他のより高いレベルのアプリケーション固有のタスクを実行したりする操作が含まれる場合があります。</p> <p>(注) このオプションを使用するには、VMware ツールを VM にインストールしている必要があります。</p>

ステップ 3 [Proceed] をクリックします。

スナップショットの復元

なんらかの理由で VM のクラッシュや誤動作が発生した場合は、VM の最新のスナップショットに復帰させることができます。利用可能な VM のスナップショットが複数ある場合は、特定のスナップショットを選択して復帰させることもできます。



(注) VM の [Revert Snapshots Details] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、[Virtual Resources] をクリックして [VMs] を選択します。

ステップ 2 VM を右クリックして [Revert Snapshot] を選択します。
[Revert Virtual Machine Snapshot] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

名前	説明
[Snapshot] チェックボックス	オンにすると、スナップショットとして定義されます。

ステップ 4 [Proceed] をクリックします。

スナップショットをゴールデンとしてマーキング

スナップショットをゴールデンとしてマーキングすると、不用意な削除を防止できます。ゴールデンスナップショットを削除する唯一の方法は、ゴールデンスナップショットのマーキングを解除する（標準のスナップショットに戻す）ことです。



(注) VM の [Mark Golden Snapshot] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Mark Golden Snapshot] をクリックします。
[Mark Golden Snapshot] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Snapshot] チェックボックス	ゴールデン スナップショットとしてマーキングする適切なスナップショットのボックスをオンにします。
[Marks As Golden Snapshot] チェックボックス	このボックスをオンにして、選択したスナップショットをゴールデンスナップショットとしてマーキングします。

ステップ 3 [Proceed] をクリックします。

ゴールデン スナップショットのマーキング解除

以前にゴールデンとしてマーキングしたスナップショットのマーキングを解除できます。



(注) VM の [Mark Golden Snapshot] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Mark Golden Snapshot] をクリックします。
[Mark Golden Snapshot] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Snapshot] チェックボックス	スナップショットとしてマーキングする適切なゴールデン スナップショットのボックスをオンにします。
[Marks As Golden Snapshot] チェックボックス	このボックスをオンにして、選択したスナップショットのゴールデン スナップショットとしてのマーキングを解除します。

ステップ 3 [Proceed] をクリックします。

スナップショットの削除

重要ではないと判断されるスナップショットを削除して、より新しいスナップショットのためにディスク スペースを増やすことができます。ただし、削除可能なスナップショットはゴールデン スナップショットとしてマーキングされていないものだけです。



(注) VM の [Delete Snapshot] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Delete Snapshot] をクリックします。

[Delete Snapshot] ダイアログボックスで、次のチェックボックスを設定します。

名前	説明
[Snapshot] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、スナップショットを選択します。
[Delete Children] チェックボックス	選択したスナップショットの子を削除するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Proceed] をクリックします。

すべてのスナップショットの削除

ゴールデン スナップショットがなければ、すべての利用可能なスナップショットを削除できません。ゴールデン スナップショットが有効な場合、すべてのスナップショットを削除するには、まず、そのゴールデン スナップショットのマーキングを解除する必要があります。



(注) VM の [Delete All Snapshots] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Delete All Snapshots] を選択します。

[Delete All Snapshots] ダイアログボックスで、次のチェックボックスを設定します。

名前	説明
[Delete All Snapshots] チェックボックス	すべてのスナップショットを削除するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Proceed] をクリックします。

VM ディスクの作成



(注) VM の [Create VM Disk] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Create VM Disk] を選択します。
[Create VM Disk] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	選択した VM の名前。
[New Disk (GB)] フィールド	VM のディスク サイズを GB 単位で入力します。
[Select Disk Type] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから必要なディスクを選択します。
[Select Datastore] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストからデータストアを選択します。 (注) データストアの選択肢は、VM に関連付けられているストレージポリシーによって異なります。
[Thin Provision] チェックボックス	VM の作成時にシンプロビジョニングを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) シンプロビジョニングにより、物理ストレージ容量の動的割り当てが有効になり、VM ストレージの使用率が向上します。

ステップ 3 [Create] をクリックします。

VM ディスクのサイズ変更

この機能を使用すると、VM に割り当てられる（プロビジョニングされる）ディスク領域を変更できます。デフォルトでは、VM のディスク サイズを増やす操作だけが可能です。



- (注)
- VM のディスク サイズは拡大できますが、縮小できません。
 - VM の [VM Disk Resize] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[VM Disk Resize] をクリックします。
[Resize VM Disk] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	VM の名前。 この名前は編集できません。
[Select Disk] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストから VM ディスクを選択します。
[Total Provisioned (GB)] フィールド	VM の選択したディスクにプロビジョニングされている容量の合計を表示します。
[New Size (GB)] フィールド	VM の新しいサイズ。新しいディスク サイズは、プロビジョニングされているサイズの合計よりも大きくする必要があります。

ステップ 3 [Resize] をクリックします。

VM ディスクの削除



- (注) VM の [Delete VM Disk] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Delete VM Disk] を選択します。
[Delete VM Disk] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名] フィールド	選択した VM の名前。
[Select Disk Name] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストからハードディスクを選択します。

ステップ 3 [Delete] をクリックします。

VM の再同期



(注) VM の [Resync VM] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Resync VM] をクリックします。

ステップ 3 [Resync VM] ダイアログボックスで、[Max Wait Time (minutes)] ドロップダウンリストから 0 ~ 30 の分単位の数値を選択します。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。

vNIC の追加

複数のポートグループ ネットワーク ベースの vNIC を VM に追加できます。



(注) [Add vNICs] は、アプリケーション VM にも適用できます。サービス VM の vNIC は、追加または削除できません。

- ステップ 1** メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーションコンテナを選択して、[VACS Add vNICs] を選択します。[Add VACS VM vNICs] 画面が表示されます。
- ステップ 3** 利用可能なインターフェイスのリストから、仮想マシンのネットワークインターフェイスを選択します。
- ステップ 4** [+] をクリックして、インターフェイスを追加します。
[Add Entry to VACS VM Networks 2] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** [Add Entry to VACS VM Networks 2] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM Network Interface Name] フィールド	VM ネットワーク インターフェイスの一意の名前を入力します。
[Select the Network] ドロップダウンリスト	ネットワーク インターフェイス カード (NIC) を接続するポート グループ ベースのネットワークを選択します。
[Adapter Type] ドロップダウンリスト	適切なアダプタ タイプを選択します。 [Submit] をクリックします。

- ステップ 6** [Submit] をクリックします。

vNIC の削除

VM 上の既存の (または複数の) ポートグループ ネットワーク ベースの vNIC を削除できます。このオプションは、Cisco VACS アプリケーション コンテナの一部である VM に対してのみ使用できます。



(注) [Add vNICs] は、アプリケーション VM にのみ適用できます。サービス VM の vNIC は、追加または削除できません。

- ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2 該当する VM を選択して、[VACS Del vNICs] を選択します。[Delete VM vNICs] 画面が表示されます。
- ステップ 3 [VM vNICs] から [Select] ボタンをクリックします。
[Select Items] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4 削除する vNIC のチェックボックスをオンにするか、[Check All] をクリックしてすべての vNIC を選択します。
- ステップ 5 [Select] をクリックします。
- ステップ 6 [Delete] をクリックします。

削除プロセスを完了するために VM が再起動されます。

VM の詳細の表示

この機能を使用すると、VM アクション リクエスト、vNIC、VM スナップショット、一般的なサマリー情報など、VM に関する詳細を表示できます。



(注) VM の [View Details] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

- ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2 該当する VM を選択して、[View Details] をクリックします。
[Summary] 画面が表示されます。

OVF ファイルについて

オープン仮想化フォーマット (OVF) ファイルは、以前に構成した OVF ファイルが展開される保管場所にアップロードできます (zip および jar の両形式で)。これらのファイルは、VM を Cisco VACS アプリケーション コンテナに追加する際に使用できます。

OVF ファイルのアップロード

シスコ VACS を使用すると、OVF ファイル（OVA、zip、および jar 形式）を定義済み保管場所にアップロードして、そのファイルをグループやお客様の組織に導入できます。

ステップ 1 メニューバーで、Services > User OVF Management の順に選択します。

ステップ 2 [Upload File] をクリックします。

ステップ 3 [Upload File] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Folder Type] ドロップダウンリスト	OVF ファイルが含まれるフォルダのタイプ。次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [User] : エンドユーザは、このロールを選択します。エンドユーザには広範囲の権限は付与されません。ユーザロールは第1レベルのサポートに適していますが、その主要な目的は問題の識別、修復、およびエスカレーションです。 • [Group] : このファイルは、定義されたグループのユーザのみが利用できます。
[File Name] フィールド	アップロードおよび導入する OVF ファイルの名前。
[Upload] オプション	[File Upload] ダイアログボックスが開き、OVF ファイルを参照および選択できます。 (注) 保管場所にアップロードできる OVF ファイルは、OVA、zip、および jar 形式のファイルのみです。 ファイルがアップロードされ、ファイルが使用できるようになったことを示す確認メッセージが表示されたら、[File Upload] ダイアログボックスを閉じます。
[File Description] フィールド	ファイルの説明（必要な場合）。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。

ステップ 5 [Submit Result - Upload Successfully] ダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。アップロードしたファイルは、[User OVF Management] テーブルにリストされます。

(注) これらのファイルは、VM をアプリケーション コンテナに追加する際に使用します。

OVF ファイルの削除

-
- ステップ 1** メニューバーで、Services > User OVF Management の順に選択します。
- ステップ 2** テーブルから OVF ファイルを選択して、[Delete File] をクリックします。
[Delete File] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [Submit] をクリックします。
-

VM の複製



-
- (注) VM の [Clone] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。
-

VM の複製は、同等の性能の新しい VM を作成する目的で既存の VM をコピーする操作と同じです。複製では、複製元の VM のパラメータを維持しながら、新しい VM に必要な調整を実施することで時間を節約できます。複製に指定される新しい名前は、システムポリシーで定義されません。

- ステップ 1** メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2** 該当する VM を選択して、[Clone] を選択します。
[Clone VM] ウィザードが表示されます。
- ステップ 3** [Select Group] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[グループの選択] ドロップダウンリスト	複製する定義済みのグループを選択します。デフォルトでは、[Default Group] が選択されています。

名前	説明
[Use Linked Clone] チェックボックス	リンク クローンから VM を複製する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) リンク クローンは、親 VM と仮想ディスクを共有する仮想マシンのコピーです。リンク クローンは、親 VM のスナップショットから作成されます。リンク クローンは親 VM にアクセスする必要があります。親 VM にアクセスできない場合、リンク クローンは無効化されます。
[Use Linked Clone] ドロップダウンリスト	リンク クローンに関連付けられているスナップショットを選択します。 次のいずれかを選択できます。 • Existing Snapshot • New Snapshot
[Select Existing Snapshot] フィールド	[Select] をクリックして、既存のスナップショットのリストを表示します。 リストからスナップショットを選択して、[Select] をクリックします。 (注) このフィールドは、[Existing Snapshot] を選択した場合にのみ表示されます。
[Snapshot Name] フィールド	スナップショットの名前を指定します。 (注) このフィールドは、[New Snapshot] を選択した場合にのみ表示されます。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [Customization Options] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Category] ドロップダウンリスト	目的の VM カテゴリを選択します。
[Credential Options] ドロップダウンリスト	VM アクセスクレデンシャル（共有）の取得をユーザに許可するか、禁止するかを選択します。 [Do not share] オプションは、管理者が Cisco UCS Director 外部の別のユーザにクレデンシャルをプライベートに送信する場合に選択します。

名前	説明
[Provision all disks in a single datastore] チェックボックス	以前に設定した単一データストアに含まれているすべての VM ディスクをプロビジョニングする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[User ID] フィールド	ユーザ ID。 このオプションは、[Credential Options] から、いずれかの共有オプションを選択した場合に表示されません。
[Password] フィールド	ユーザのパスワード。 このオプションは、[Credential Options] から、いずれかの共有オプションを選択した場合に表示されません。
[Automatic Guest Customization] チェックボックス	[Enable] チェックボックスがオンになっています。
[Post Provisioning Custom Actions] チェックボックス	ワークフローを付加する場合は、[Enable] をクリックします。[Workflow] ドロップダウンリストに、選択できるワークフローのリストが表示されます。プロビジョニングの開始時に、選択されたワークフローが開始します。
[VM App Charge Frequency] ドロップダウンリスト	[Hourly] または [Monthly] を選択します。
[Active VM Application Cost] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。
[Inactive VM Application Cost] フィールド	時間単位または月単位で、非アクティブ状態の VM のカタログにかかるコスト。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Deployment Configuration] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Select VDC] ドロップダウン リスト	VM に適用するポリシーを含んでいる VDC を選択します。
[Comment] フィールド	任意で、VDC の説明を入力します。

名前	説明
[Provision] ドロップダウンリスト	今すぐ VDC をプロビジョニングする場合は [Now] を選択します。後で VDC をプロビジョニングする場合は [Later] を選択します。 [Later] を選択すると、日付と時刻を指定するフィールドが表示されます。
[Lease Time] チェックボックス	リースの有効期間を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[Days] フィールド	リース期間の日数を指定します。 (注) このフィールドは、[Lease Time] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。
[Hours] フィールド	リース期間の時間数を指定します。 (注) このフィールドは、[Lease Time] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [Custom Specification] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[CPU Cores] ドロップダウンリスト	プロビジョニングする VM の CPU コアを選択します。
[Memory] ドロップダウンリスト	プロビジョニングする VM のメモリ量を選択します。

ステップ 10 [Next] をクリックします。

ステップ 11 [Select Datastores] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM Disks] 鉛筆アイコン	ディスクにデータストアを割り当てるには、[VM Disks] 鉛筆アイコンをクリックします（ディスクが使用可能な場合）。 また、このペインでは VM ディスクのサイズを変更することもできます。

ステップ 12 [Edit VM Disks Entry] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
Disk Name	データストアが割り当てられる VM ディスクの名前。
Disk Type	VM ディスクのタイプを選択します。例：System。
Selected Datastores	この VM ディスクに割り当てるデータストアを選択します。表示されるデータストア選択項目は、VDC に付加されているデータ ストレージ ポリシーから取り込まれます。
[Do not resize] チェックボックス	VM を複製する前にディスクのサイズが変更されないようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[Size] ドロップダウンリストが表示されなくなります。
[Size] ドロップダウンリスト	VM の複製時に新しいディスク サイズを指定します。 (注) ディスクサイズは、ストレージポリシーの [Allow Resizing of Disk] チェックボックスをオンにしている場合に編集できます。

ステップ 13 [Submit] をクリックします。

ステップ 14 [Next] をクリックします。

ステップ 15 [Select VM Networks] 画面で、次のフィールドから選択します。

名前	説明
[VM Networks] 鉛筆アイコン	VM ネットワークを編集する場合は、このアイコンをクリックします。

(注) [Select VM Networks] ペインは、ネットワーク ポリシーで [Allow end user to select optional NICs] チェックボックスがオンにされるまで空のままになります。

- ステップ 16 [Select] ダイアログボックスで、VM に関連付けるクラウドを選択します。
- ステップ 17 [Submit] をクリックします。
- ステップ 18 [Summary] ペインで、複製した VM の情報を確認します。
- ステップ 19 [Submit] をクリックします。
複製した VM の新しい名前は、VDC ポリシーから取得されます。
-

イメージとしての VM の複製



- (注) VM の [Clone VM as Image] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。
-

- ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2 イメージとして複製する VM を選択して、[Clone VM as Image] をクリックします。
- ステップ 3 [Clone VM as Image] ダイアログボックスで、テンプレートの名前を入力します。
- ステップ 4 [Submit] をクリックします。
-

イメージとしての VM の変換



- (注) VM の [Convert VM as Image] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。
-

既存の VM は、VM のプロビジョニングに使用できるイメージに変換できます。既存の VM をイメージに変換すると、その VM はオフラインになり削除されます。

- ステップ 1 メインメニューから、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 3 該当する VM を選択して、[Convert VM as Image] を選択します。
- ステップ 4 [Convert VM as Image] 画面で、[Submit] をクリックします。
-

新しいイメージは、Virtual Resources > Images に表示されます。

vDC への VM の移動



(注) VM の [Move VM to VDC] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

VM を VDC に移動して、VDC システム ポリシーのルールが VM に維持されるようにすることができます。VDC に移動した VM によって、既存の VM を置き換えます。VM を VDC に移動するときに、VM に変更を加えることもできます。古い VM が削除され、新しい VM 名がシステム ポリシーに従って割り当てられます。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Move VM to VDC] を選択します。

[Move VM to VDC] ウィザードが表示されます。

ステップ 3 [Select Group] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Select Group] ドロップダウン リスト	複製する定義済みのグループを選択します。デフォルトでは、[Default Group] が選択されています。
[Use Linked Clone] チェックボックス	リンク クローンから VM を複製する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) リンク クローンは、親 VM と仮想ディスクを共有する仮想マシンのコピーです。リンク クローンは、親 VM のスナップショットから作成されます。リンク クローンは親 VM にアクセスする必要があります。親 VM にアクセスできない場合、リンク クローンは無効化されます。
[Use Linked Clone] ドロップダウンリスト	リンク クローンに関連付けられているスナップショットを選択します。 次のいずれかを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Existing Snapshot • New Snapshot

名前	説明
[Select Existing Snapshot] フィールド	[Select] をクリックして、既存のスナップショットのリストを表示します。 リストからスナップショットを選択して、[Select] をクリックします。 (注) このフィールドは、[Existing Snapshot] を選択した場合にのみ表示されます。
[Snapshot Name] フィールド	スナップショットの名前を指定します。 (注) このフィールドは、[New Snapshot] を選択した場合にのみ表示されます。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [Customization Options] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Category] ドロップダウン リスト	目的の VM カテゴリを選択します。
[Credential Options] ドロップダウンリスト	VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得をユーザに許可するか、禁止するかを選択します。 [Do not share] オプションは、管理者が Cisco UCS Director 外部の別のユーザにクレデンシャルをプライベートに送信する場合に選択します。
[Provision all disks in a single datastore] チェックボックス	以前に設定した単一データストアに含まれているすべての VM ディスクをプロビジョニングする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[User ID] フィールド	ユーザ ID。 このオプションは、[Credential Options] から、いずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[Password] フィールド	ユーザのパスワード。 このオプションは、[Credential Options] から、いずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。
[Automatic Guest Customization] チェックボックス	[Enable] チェックボックスがオンになっています。

名前	説明
[Post Provisioning Custom Actions] チェックボックス	ワークフローを付加する場合は、[Enable] をクリックします。[Workflow] ドロップダウンリストに、選択できるワークフローのリストが表示されます。プロビジョニングの開始時に、選択されたワークフローが開始します。
[VM App Charge Frequency] ドロップダウンリスト	[Hourly] または [Monthly] を選択します。
[Active VM Application Cost] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。
[Inactive VM Application Cost] フィールド	時間単位または月単位で、非アクティブ状態の VM のカタログにかかるコスト。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Deployment Configuration] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Select VDC] ドロップダウン リスト	VM に適用するポリシーを含んでいる VDC を選択します。
[Comment] フィールド	任意で、VDC の説明を入力します。
[Provision] ドロップダウンリスト	今すぐ VDC をプロビジョニングする場合は [Now] を選択します。後で VDC をプロビジョニングする場合は [Later] を選択します。 [Later] を選択すると、日付と時刻を指定するフィールドが表示されます。
[Lease Time] チェックボックス	リースの有効期間を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[Days] フィールド	リース期間の日数を指定します。 (注) このフィールドは、[Lease Time] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。
[Hours] フィールド	リース期間の時間数を指定します。 (注) このフィールドは、[Lease Time] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [Custom Specification] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[CPU Cores] ドロップダウンリスト	プロビジョニングする VM の CPU コアを選択します。
[Memory] ドロップダウンリスト	プロビジョニングする VM のメモリ量を選択します。

ステップ 10 [Next] をクリックします。

ステップ 11 [Select Datastores] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM Disks] 鉛筆アイコン	ディスクにデータストアを割り当てるには、[VM Disks] 鉛筆アイコンをクリックします（ディスクが使用可能な場合）。 また、このペインでは VM ディスクのサイズを変更することもできます。

ステップ 12 [Edit VM Disks Entry] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
Disk Name	データストアが割り当てられる VM ディスクの名前。
Disk Type	VM ディスクのタイプを選択します。例：System。
Selected Datastores	この VM ディスクに割り当てるデータストアを選択します。表示されるデータストア選択項目は、VDC に付加されているデータ ストレージ ポリシーから取り込まれます。
[Do not resize] チェックボックス	VM を複製する前にディスクのサイズが変更されないようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[Size] ドロップダウンリストが表示されなくなります。

名前	説明
[Size] ドロップダウンリスト	VM の複製時に新しいディスク サイズを指定します。 (注) ディスクサイズは、ストレージポリシーの [Allow Resizing of Disk] チェックボックスをオンにしている場合に編集できます。

ステップ 13 [Submit] をクリックします。

ステップ 14 [Next] をクリックします。

ステップ 15 [Select VM Networks] 画面で、次のフィールドから選択します。

名前	説明
[VM Networks] 鉛筆アイコン	VM ネットワークを編集する場合は、このアイコンをクリックします。

(注) [Select VM Networks] ペインは、ネットワーク ポリシーで [Allow end user to select optional NICs] チェックボックスがオンにされるまで空のままになります。

ステップ 16 [Select] ダイアログボックスで、VM に関連付けるクラウドを選択します。

ステップ 17 [Submit] をクリックします。

ステップ 18 [Summary] ペインで、複製した VM の情報を確認します。

ステップ 19 [Submit] をクリックします。

複製した VM の新しい名前は、VDC ポリシーから取得されます。

vDC への VM の割り当て



(注) VM の [Assign VMs to VDC] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

グループまたは vDC に VM を割り当てて、VM のカテゴリを変更できます。VM のプロビジョニング時刻、終了時刻、およびラベルを設定できます。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 VM を選択して、[Assign VMs to VDC] を選択します。

ステップ 3 [Assign VMs to VDC] 画面で、[Assign] をクリックします。

VM クライアントの起動

この機能により、リモート コンソールまたは VNC コンソールを設定できます。VNC コンソールは各 VM にアクセスを提供します。このコンソールは VM の完全な制御機能を備えています。このコンソールには、任意のスタンドアロン Web ブラウザを使用してアクセスできます。プラグインは不要です。Cisco UCS Director はコンソールの自動設定を可能にします。



- (注)
- VM の [Launch VM Client] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。
 - VM のログイン クレデンシャルが Web またはリモート デスクトップ アクセス用に設定されている場合は、そのクレデンシャルにアクセスできます。管理者は VM プロビジョニングの起点になる適切なカタログ（および必要な権限）を提供する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Launch VM Client] を選択します。

[Launch Client] ダイアログボックスから、アクセス スキームを選択します。

名前	説明
[Access Scheme] ドロップダウンリスト	ドロップダウンリストからアクセス スキームを選択します。選択可能なスキームは、VNC コンソールと VMRC です。 (注) VMRC スキームと VNC コンソール スキームは、有効化されている場合にのみ選択できます。ただし、Cisco VACS では、すべてのワークロード VM に対して導入時に VNC コンソールが有効化されます。

ステップ 3 [Proceed] をクリックします。

VM の VNC コンソールの有効化



(注) VM の [Configure VNC] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

- ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2 該当する VM を選択して、[Configure VNC] をクリックします。
- ステップ 3 [Configure VNC Request] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。
リクエストが送信されると、Cisco UCS Director は VM への VNC コンソールアクセスを自動的に設定します。

VNC 接続のテスト

VNC 接続のテストは、トラブルシューティングのために使用します。VNC 接続のテストが成功すると、ホストノードの IP アドレスと VNC ポート番号が表示されます。例: VNC connectivity intact at 172.29.110.75:5921。

ただし、接続が失敗するとエラーメッセージが表示されます。例: VM is not configured for VNC yet。



(注) VM の [Test VNC] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

- ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。
- ステップ 2 該当する VM を選択して、[Test VNC] をクリックします。
- ステップ 3 [Test VNC Connectivity] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。
- ステップ 4 結果を使用して、VNC 接続をトラブルシューティングします。
(注) 接続に失敗した場合は、VM の IP アドレスに VNC ポートが割り当てられていません。詳細については、[VM の VNC コンソールの有効化](#)、(41 ページ) を参照してください。

VMRC コンソール アクセスの有効化または無効化

ブラウザで実行する Web アプリケーションは、VMRC ブラウザ プラグインを使用して仮想マシンのコンソール機能にアクセスできます。このアクセスには、VMRC JavaScript API が使用されません。VMRC ブラウザ プラグインと VMRC API を使用する Web アプリケーションにより、ユーザは適切な Web ブラウザとオペレーティングシステムを備えたあらゆるシステムから仮想マシンにリモートでアクセスして、やりとりを行うことができます。



(注) VM の [Enable/Disable VMRC Console] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[Enable/Disable VMRC Console] を選択します。

[Enable VMRC Console Access] ダイアログボックスで、[Enable VMRC Console] チェックボックスをオンにして、VMRC コンソール アクセスを有効にします。

(注) VMRC コンソールが有効化されている場合は [Disable VMRC Console Access] ダイアログボックスが表示されます。[Disable VMRC Console] チェックボックスをオンにすると、VMRC コントロール アクセスを無効化できます。

ステップ 3 [Submit] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

CD/DVD ドライブとしての ISO イメージのマウント



(注) [CD/DVD Drive Mount ISO] オプションにアクセスするには、該当する権限を管理者が付与する必要があります。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > VMs の順に選択します。

ステップ 2 該当する VM を選択して、[CD/DVD Drive Mount ISO] をクリックします。

[CD/DVD Drive Mount ISO] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ISO Image] ボタン	[Select] をクリックして、利用可能なイメージのリストから ISO イメージを選択します。[Select] ダイアログボックスで、イメージを選択してから、[Select] をクリックします。 (注) 利用可能なイメージのリストが表示されない場合は、管理者にお問い合わせください。
[Create New CD/DVD Drive] ラジオ ボタン	新しい CD/DVD ドライブを作成する場合は、このラジオ ボタンをクリックします。
[Use Existing CD/DVD Drive] ラジオ ボタン	既存の CD/DVD ドライブを使用する場合は、このラジオ ボタンをクリックします。
[Power Off VM] チェックボックス	VMの電源をオフにするには、このチェックボックスをオンにします。 (注) このチェックボックスは、新しいCD/DVD ドライブの作成を選択した場合にのみ表示されます。
[Select CD/DVD Drive] ドロップダウンリスト	利用可能なドライブのリストから目的のドライブを選択します。 (注) このドロップダウンリストは、既存の CD/DVD ドライブの使用を選択した場合にのみ表示されます

ステップ 3 [Submit] をクリックします。



第 4 章

Cisco VACS Self-Service Portal の使用

この章の内容は、次のとおりです。

- [レポートの表示, 45 ページ](#)
- [アプリケーション コンテナの電源オン, 48 ページ](#)
- [アプリケーション コンテナの電源オフ, 49 ページ](#)
- [仮想マシンの追加, 49 ページ](#)
- [仮想マシンの削除, 52 ページ](#)
- [サービス VM のパスワードの管理, 52 ページ](#)
- [仮想マシンへのスタティック NAT の設定, 54 ページ](#)
- [ERSPAN の設定, 55 ページ](#)
- [ファイアウォール ポリシーの管理, 57 ページ](#)
- [アプリケーション コンテナの削除, 62 ページ](#)

レポートの表示

Self-Service Portal は、システムによって生成されたレポートを表示するためのインターフェイスを提供します。管理者が提供するオプションに基づいて、次のレポートを表示できます。

- 1 管理者がセキュア コンテナの詳細を表示できるようにしている場合は、次のセキュア レポートが利用可能になります。
 - サマリー レポート：ワークロード VM の詳細が表示されます。
 - 詳細レポート：選択したアプリケーション コンテナに関連付けられた VM のサマリーなどの詳細に加えて、VM のクレデンシャルが表示されます。このレポートには、サービス VM の詳細は表示されません。
- 2 管理者がすべての詳細の表示を許可している場合は、次のレポートが利用可能になります。

- サマリー：すべての VM のサマリーなどのコンテナの詳細が表示されます。これには、選択したアプリケーションコンテナに関連付けられたサービス VM の詳細も含まれます。
- クレデンシヤルを含む詳細レポート：選択したアプリケーション コンテナに関連付けられた VM のサマリーなどの詳細に加えて、VM のクレデンシヤルが表示されます。
- クレデンシヤル含まない詳細レポート：VM の詳細が表示されますが、クレデンシヤルの詳細は表示されません。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。

ステップ 2 該当するアプリケーション コンテナを選択し、[View Reports] をクリックします。
[View Report] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [Report Type] ドロップダウンリストから、レポートの種類を選択します。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。
[Submit] をクリックすると、ポップアップ ウィンドウが表示され、対応するレポートが表示されます。

レポートのタイプ



注目

- VM のログインパスワードと VNC の詳細を確認するには、クレデンシヤルを使用して詳細レポートを表示します。
- ASAv/CSR/VSG のログインユーザは `admin` です (SLB の場合は `root` です)。
- CSR のデフォルトのイネーブルパスワードは `cisco123` です。
- イネーブルパスワードは、Cisco ASAv には必要ありません。
- セキュア コンテナの詳細に含まれるサマリー レポートと詳細レポートは、管理者が付与した権限に基づいて表示されます。
- 詳細レポートの内容は、そのレポートがセキュア レポートであるか、非セキュア レポートであるかによって異なります。

Cisco VACS は、ユーザが作成するコンテナごとに、次のタイプのレポートを生成します。

- 1 セキュア レポート：これに該当するレポートは、管理者がユーザ オプションの設定時に付与した権限に基づいて表示されます。また、サービス VM の詳細は表示されません。

利用可能なセキュア レポートは、次のとおりです。

- サマリー レポート：ワークロード VM の詳細が表示されます。
- 詳細レポート

- コンテナ サマリー：コンテナ名、コンテナタイプ、そのコンテナが属しているグループに属、およびコンテナの作成日が表示されます。
- 仮想マシン：ワークロード VM の詳細が表示されます。
- イベント履歴：導入履歴が表示されます。
- 仮想マシンのサブネット情報：ネットワークおよびゲートウェイの IP アドレスとサブネット マスクが表示されます。
- CSR または ASA のアップリンク情報：CSR 1000V または ASA のアップリンクに関する情報。
- スタティック NAT の詳細：スタティック NAT 関連の情報が表示されます。



(注) 管理者がセキュアコンテナの詳細を表示する権限を付与している場合は、Stats URL に SLB 管理 IP アドレスではなく、VIP IP アドレスが表示されます。

2 非セキュアレポート：これに該当するレポートは、管理者がユーザオプションの設定時に付与した権限に基づいて表示されます。利用可能なレポートは次のとおりです。

- 変更点
- クレデンシャルを含む詳細レポート
- クレデンシャル含まない詳細レポート

サマリーレポートには、すべての VM のサマリーなどのコンテナの詳細が表示されます。これには、選択したアプリケーションコンテナに関連付けられたサービス VM の詳細も含まれます。

詳細レポート（クレデンシャルの有無にかかわらず）には、次の情報が表示されます。

- コンテナ サマリー：コンテナ名、コンテナタイプ、そのコンテナが属しているグループに属、およびコンテナの作成日が表示されます。
- 仮想マシン：コンテナ内のすべてのプロビジョニング済み VM とそのステータスに関する総合的な情報、ディスクサイズ、メモリおよび CPU などのリソース消費の詳細、ネットワークインターフェイス、ホスト名およびステータスの詳細、およびコンテナのポートマッピングが表示されます。
- コンテナポートグループ：特定の管理クレデンシャルとともにコンテナポートグループに関する詳細が表示されます。
- イベント履歴：導入履歴が表示されます。
- サーバロードバランシング：サーバロードバランシング (SLB) のプライマリおよびセカンダリ仮想マシン名、IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、データおよび管理のポートグループ、URL の統計、ユーザ名とパスワードの統計、VIP に関する情報、ゾーン、および実サーバが表示されます。

- 仮想マシンのサブネット情報：ネットワークおよびゲートウェイの IP アドレスとサブネットマスクが表示されます。
- ASA のライセンスの詳細または CSR 1000V ライセンスの詳細：Cisco VACS で展開した ASA または CSR 1000V 仮想アプライアンスと、それに対応するライセンス状態の詳細が表示されます。
- ASA または CSR のアップリンク情報：ASA または CSR 1000V のアップリンクに関する情報。
- スタティック NAT の詳細：スタティック NAT 関連の情報が表示されます。
- ERSPAN の詳細：ERSPAN 関連の情報が表示されます。
- 必須のアップストリーム ルータ設定：このセクションは、エッジゲートウェイがコンテナで無効にされている場合に表示されます。



(注) クレデンシャルを含む詳細レポートには、マネージャ サービス VM のパスワード機能を使用してリセットまたは再設定された、サービス VM のパスワードも表示されます。

アプリケーション コンテナの電源オン

Self-Service Portal を使用すると、アプリケーション コンテナの電源をオンにできます。



- (注)
- [Power On] オプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。
 - セキュア レポート モードで VM の電源がオンにされると、サービス VM の電源が自動的にオンになります。

- ステップ 1** メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Power On Container] をクリックします。
[Power On Container] ダイアログボックスが表示され、プロビジョニング済みの VM が表示されます。
- ステップ 3** 電源をオンにする VM を選択して、[Submit] をクリックします。
[Submit Result] 確認ボックスが表示されます。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。

アプリケーションコンテナの電源オフ

Self-Service Portal を使用すると、アプリケーション コンテナの電源をオフにできます。



- (注)
- [Power Off] オプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。
 - セキュア レポート モードで VM の電源がオフにされると、サービス VM の電源が自動的にオンになります。

- ステップ 1** メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Power Off Container] をクリックします。
[Power Off Container] ダイアログボックスが表示され、プロビジョニング済みの VM が表示されます。
- ステップ 3** 電源をオフにする VM を選択して、[Submit] をクリックします。
[Submit Result] 確認ボックスが表示されます。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。

仮想マシンの追加

Self-Service Portal を使用すると、定義されたグループ内のユーザに利用可能な展開済みのアプリケーション コンテナのいずれかに専用の仮想マシン (VM) を追加できます。



- (注) [Help] リンクを使用すると、対応するオンライン ヘルプにアクセスできます。

- ステップ 1** メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Add VMs] をクリックします。
- ステップ 3** [Add VMs] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Security Zone] ドロップダウンリスト	セキュリティ ゾーンを選択します。

名前	説明
[VM Name] フィールド	仮想マシンの一意の名前を長さ 32 文字以内で入力します。完全な仮想マシン名には、このフィールドで指定した名前、ゾーン名およびコンテナ名が含まれます。
[Image Type] ドロップダウンリスト	イメージタイプを選択します。選択可能なオプションは、[VM template] または [OVF] です。 (注) ISO イメージはサポートされていません。
[Image File Image] ドロップダウンリスト	展開する仮想マシン イメージをリストから選択します。このリストには、選択した vCloud アカウントに存在する仮想マシン テンプレートが含まれています。リストが空の場合は、選択した vCloud アカウントにテンプレートが存在しません。 (注) 1 ドロップダウンリストには、仮想マシンが展開されているデータセンターのホストの 1 つに追加した VM テンプレートのみが表示されます。 2 追加した VM テンプレートがドロップダウンリストに表示されない場合は、それらが表示されるように、Virtual > Compute > Polling > Request Inventory Collection でインベントリ収集を実行する必要があります。 3 利用可能な OVF ファイルにインストールされた VMware ツールがない場合、ワークフローは VM の IP アドレスを設定しているときに失敗します。
[Number of Virtual CPUs] ドロップダウンリスト	新しく作成した VM に必要になる vCPU の数を選択します。
[Memory] ドロップダウンリスト	新しく作成した VM に必要になるメモリを選択します。

名前	説明								
[VM Password Sharing Option] ドロップダウンリスト	仮想マシンのパスワードの共有オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Do not share • Share after password reset • Share template credentials 								
[VM Network Interfaces] テーブル (注) このテーブルは、カスタム コンテナに対してのみ表示されます。	<p>インターフェイスのリストから仮想マシンのネットワーク インターフェイスを選択します。</p> <p>[+] をクリックして、インターフェイスを追加します。</p> <p>(注) テンプレートで SLB が有効化されている場合は、その SLB と同じネットワーク内にある仮想マシンのネットワーク インターフェイスを最低でも 1 つ選択する必要があります。</p> <p>インターフェイスを追加するには、次の操作を実行します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[VM Network Interface Name] フィールド</td> <td>VM ネットワーク インターフェイスの一意の名前を入力します。</td> </tr> <tr> <td>[Select the Network] ドロップダウンリスト</td> <td>ネットワーク インターフェイスカード (NIC) 接続するネットワークを選択します。</td> </tr> <tr> <td>[Adapter Type] ドロップダウンリスト</td> <td>適切なアダプタ タイプを選択します。 [Submit] をクリックします。</td> </tr> </tbody> </table>	名前	説明	[VM Network Interface Name] フィールド	VM ネットワーク インターフェイスの一意の名前を入力します。	[Select the Network] ドロップダウンリスト	ネットワーク インターフェイスカード (NIC) 接続するネットワークを選択します。	[Adapter Type] ドロップダウンリスト	適切なアダプタ タイプを選択します。 [Submit] をクリックします。
名前	説明								
[VM Network Interface Name] フィールド	VM ネットワーク インターフェイスの一意の名前を入力します。								
[Select the Network] ドロップダウンリスト	ネットワーク インターフェイスカード (NIC) 接続するネットワークを選択します。								
[Adapter Type] ドロップダウンリスト	適切なアダプタ タイプを選択します。 [Submit] をクリックします。								
[Number of VM instances] フィールド。	既存のコンテナにプロビジョニングする仮想マシンインスタンスの数を入力します。								

ステップ 4 [Submit] をクリックします。

[Submit] をクリックすると、ポップアップウィンドウが表示されます。ここでは、ワークフローの進捗を追跡するために使用可能なサービス リクエスト番号が表示されます。

仮想マシンの削除

Self-Service Portal を使用すると、選択した導入済みのアプリケーション コンテナのワークロード VM とプロビジョニング済みの VM を削除できます。



- (注)
- [Delete VMs] オプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。
 - [Help] リンクを使用すると、対応するオンライン ヘルプにアクセスできます。

- ステップ 1** メニュー バーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Delete VMs] をクリックします。
[Delete VMs] ダイアログボックスが表示され、プロビジョニング済みの VM が表示されます。
- ステップ 3** 削除対象に選択した VM に対応するチェックボックスをオンにして、[Submit] をクリックします。
[Submit] をクリックすると、ポップアップウィンドウが表示されます。ここでは、ワークフローの進捗を追跡するために使用可能なサービス リクエスト番号が表示されます。
- ステップ 4** (オプション) [Close] をクリックして、削除をキャンセルします。

サービス VM のパスワードの管理

Cisco VACS を使用すると、アプリケーション コンテナ内のサービス VM (CSR、ASA、VSG、および SLB) のパスワードを再設定できます。すべてのサービス VM に同じパスワードを設定することも、それらのサービス VM にそれぞれ異なるパスワードを設定することもできます。デフォルトでは、[Manage Service VM Password] オプションは、すべてのエンドユーザーに対して有効化されています。ただし、管理者がセキュアコンテナレポートを有効化している場合、このオプションは Self-Service ユーザーに対して無効化されます。



注目 選択したセキュア コンテナ レポートのオプションに基づいて、[Manage Service VM Password] オプションが表示または非表示のどちらかになります。UI に変更が反映されるようにするために、ブラウザを更新するか別のタブに移動してから、Virtual Resources > Application Containers に移動してください。



- (注)
- パスワードは、長さ 8 ～ 64 文字の英数字にする必要があり、少なくとも 1 つの大文字、1 つの小文字、および 1 つの数字が含まれている必要があります。
 - パスワードに特殊文字を含めることはできません。
 - [Help] リンクを使用すると、対応するオンライン ヘルプにアクセスできます。

ステップ 1 メニュー バーで、Virtual Resources > Application Containers > Manage Service VM Password の順に選択します。

[Manage Service VM Password] 画面が表示されます。

ステップ 2 [Select Containers] 画面で、サービス VM のパスワードを再設定するコンテナに対応するチェックボックスをオンにします。

(注) 次に示す Cisco VACS アプリケーション コンテナのリストは、コンテナ リストのリストには表示されません。

- 進行中のサービス リクエストが含まれているもの。
- サービス VM が含まれていないもの。

ステップ 3 [Next] をクリックします。

[Set Service VM Password] 画面が表示されます。

ステップ 4 [Set Service VM Password] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Default Password] フィールド	すべてのサービス VM に同じパスワードを設定する場合は、パスワードを入力します。 すべてのサービス VM に同じパスワードを設定しない場合は、このフィールドを空白のままにします。
[Confirm Default password] フィールド	パスワードを再入力します。

名前	説明
[Apply this password for all services] チェックボックス	すべてのサービス VM に共通のパスワードとしてデフォルトパスワード設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
[CSR Password] フィールド	CSR のパスワードを入力します。
[Confirm CSR Password] フィールド	パスワードを再入力します。
[ASAv Password] フィールド	ASAv のパスワードを入力します。
[Confirm ASAv Password] フィールド	パスワードを再入力します。
[VSG Password] フィールド	VSG のパスワードを入力します。
[Confirm VSG Password] フィールド	パスワードを再入力します。
[SLB Password] フィールド	SLB のパスワードを入力します。
[Confirm SLB Password] フィールド	パスワードを再入力します。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。

(注) サービス VM のパスワードが変更されると、詳細レポートは変更されたパスワードを反映するように更新されます。

仮想マシンへのスタティック NAT の設定

スタティック NAT マッピングは、外部のパブリック IP アドレスがコンテナ内にある仮想マシンに到達できるようにするために必要になります。スタティック NAT の画面では、外部のパブリック IP アドレスを指定して、そのアドレスを仮想マシンのプライベート IP アドレスにマッピングできます。



- (注)
- スタティック NAT の動作は、エッジゲートウェイが有効化されていないコンテナではブロックされます。
 - スタティック NAT の動作は、IP タイプが [Private] の場合にのみ適用されます。IP タイプが [Public] のコンテナに場合にこの機能を設定しようとする、エラーメッセージが表示され、設定を進めることができなくなります。
 - [Help] リンクを使用すると、対応するオンラインヘルプにアクセスできます。
 - スタティック NAT を設定するオプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。

ステップ 2 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Static NAT] をクリックします。

ステップ 3 [Static NAT] ダイアログボックスで、スタティック NAT の有効化が必要になるプロビジョニング済みの VM ごとにチェックボックスをオンにします。
プロビジョニングされたワークロード VM がコンテナに存在しない場合、[Static NAT] 画面は空になります。すでにワークロード VM がプロビジョニングされていると、それらの VM がチェックボックスとともに、この画面に表示されます。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。

(注) [Private addressing] がコンテナテンプレートで指定されている場合、シスコ VACS は、プライベートアドレスを持つ内部 VM がコンテナのプロビジョニング時に外部への接続を開始できるようにするために、NAT オーバーロードをプロビジョニングします。

[Submit] をクリックすると、ポップアップウィンドウが表示されます。ここでは、ワークフローの進捗を追跡するために使用可能なサービス リクエスト番号が表示されます。

ERSPAN の設定

個々の仮想マシン間のトラフィックは、ワークロード仮想マシンのプロビジョニング後に、Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) 機能を使用して監視できます。ERSPAN は、通常、トラブルシューティングのために veth 単位でインターフェイスごとに有効にします。トラフィックを転送して分析するための ERSPAN 宛先を指定する必要があります。ワークロード VM と SLB VM の ERSPAN を有効にするには、次の手順を実行します。



- (注)
- ERSPAN を設定するオプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。
 - [Help] リンクを使用すると、対応するオンライン ヘルプにアクセスできます。

- ステップ 1** メニュー バーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[ERSPAN] をクリックします。
[Cisco VACS ERSPAN Configuration] ウィザードが表示されます。
- ステップ 3** [ERSPAN Destination IP address Specification] 画面で、トラフィックを転送して分析するための宛先 IP アドレスを指定します。
すでに ERSPAN が存在する場合は、この画面の [Destination IP Address Report] テーブルに表示されます。このテーブルには、ERSPAN セッション ID と、それに対応する宛先 IP アドレスもリストされます。
- ステップ 4** [Next] をクリックして、[ERSPAN Configuration] 画面に進みます。
- ステップ 5** [ERSPAN Configuration] 画面で、次の詳細情報を入力します。

名前	説明
[VM Name] ドロップダウンリスト	モニタするワークロード VM を選択します。
[NIC Name] ドロップダウンリスト	ワークロード VM に接続された VM NIC を選択します。
[Rx Tx Both] ドロップダウンリスト	モニタするトラフィックの方向を選択します。次のオプションがあります。 <ol style="list-style-type: none"> 1 [Receive] 方向 (Rx) 2 [Transmit] 方向 (Tx) 3 [Both] 方向 (両方)

- ステップ 6** [Submit] をクリックして、[VM NIC Configuration] テーブルにエントリを追加します。
(注) それぞれのアイコンを使用して、エントリの編集、削除、上下の移動を実行できます。
- ステップ 7** [Submit] 画面の [ERSPAN Configuration] をクリックして、ERSPAN の設定リクエストを送信します。サービス リクエストは、ERSPAN モニタリングを設定するワークフローに送信されます。ワークフローの実行が正常に完了すると、ERSPAN セッションが数分後に ERSPAN 画面に表示されます。サービス リクエストのステータスは、[Services] メニューの [Service Requests] 画面から確認できます。

- (注)
- 1 既存の ERSPAN セッションを停止するには、[Destination IP address] と [Session ID] に対応するチェックボックスをオンにし、VM NIC 構成を削除して、[Submit] をクリックします。
 - 2 ERSPAN 設定でセッションが設定されていると、セッション ID とセッションタイプ ([Rx]、[Tx] および [Both]) は変更できません。これらの詳細を変更するには、まず、セッションを削除して、新しいセッションを作成する必要があります。

ステップ 8 [Submit] をクリックします。

[Submit] をクリックすると、ポップアップウィンドウが表示されます。ここには、ワークフローの進捗を追跡するために使用可能なサービス リクエスト番号が表示されます。

ファイアウォールポリシーの管理

Cisco Virtual Application Cloud Segmentation (VACS) Services を使用すると、展開済みのコンテナごとに、既存のファイアウォールアクセスコントロールリスト (ACL) のルールを変更できます。これには、新しい ACL ルールの追加と、既存の ACL ルールの変更および削除が含まれます。ファイアウォールポリシーでは、1 つのコンテナに定義された ACL のみを変更できます。新しいゾーンの追加や、既存のゾーンの変更はできません。



- (注)
- このオプションは、階層 (VSG) のゾーンセキュリティがコンテナの展開元のテンプレートで有効化されていない場合は機能しません。
 - 導入済みコンテナに対する既存のアクセス コントロール リスト (ACL) のルールを変更する場合は、次の手順を使用します。テンプレートのファイアウォール ACL のルールを変更するには、Physical > Network > Multi-Domain Manager > PNSC Accounts で利用可能な PNSC Firewall Policies タブを使用する必要があります。詳細については、『Cisco Virtual Application Cloud Segmentation Services Configuration Guide』の「Viewing and Editing the ACLs for the 3 Tier Templates」のセクションを参照してください。
 - ウィザードで利用可能な [Help] リンクを使用すると、対応するオンラインヘルプにアクセスできます。

ファイアウォール ACL ルールの表示

コンテナに定義されたファイアウォールポリシーに関連付けられた既存の ACL を表示できます。



(注) [Help] リンクを使用すると、対応するオンラインヘルプにアクセスできます。

- ステップ1** メニューバーで、Virtual Resource > Application Containers の順に選択します。
- ステップ2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Firewall Policy] をクリックします。
[Edit Firewall] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ3** [PNSC Firewall Specification] 画面に、ポリシーの名前と説明が表示されます。[Next] をクリックします。
[PNSC-ACL Rules] 画面が表示されます。既存の PNSC ACL ルールを表示できます。

ファイアウォール ACL ルールの追加

コンテナに定義されているファイアウォール ポリシーに新しい ACL ルールを追加できます。



- (注)
- ファイアウォール ACL ルールを追加するオプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。
 - [Help] リンクを使用すると、対応するオンラインヘルプにアクセスできます。

- ステップ1** メニューバーで、Virtual Resource > Application Containers の順に選択します。
- ステップ2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Firewall Policy] をクリックします。
[Edit Firewall] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ3** [PNSC Firewall Specification] 画面に、ポリシーの名前と説明が表示されます。[Next] をクリックします。
[PNSC-ACL Rules] 画面が表示されます。
- ステップ4** [PNSC-ACL Rules] 画面で、[+] アイコンをクリックして新しい PNSC ACL ルールを追加します。
[Add Entry to PNSC ACL Rules] 画面が表示されます。
- ステップ5** [Add Entry to PNSC ACL Rules] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	PNSC ACL ルールの一意の名前を入力します。 この名前には、長さ 2～32 文字の英数字と特殊文字セットを指定できます。
[Description] フィールド	PNSC ACL ルールの説明を入力します。この説明は、長さ 256 文字以下にします。

名前	説明
[Action] ドロップダウンリスト	<p>ルールの条件が満たされていない場合は、実行するアクションを選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Drop] : トラフィックをドロップする、つまりアクセスを拒否します。 • [Permit] : トラフィックを転送する、つまりアクセスを許可します。 • [Reset] : 接続をリセットします。
[Condition Match Criteria] ドロップダウンリスト	<p>条件の一致基準を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての条件に一致させる場合は、[ACL Policy Rule] に [match-all] を選択します (AND)。 • いずれか 1 つの条件に一致させる場合は、[ACL Policy Rule] に [match-any] を選択します (OR)。
[Protocol/Service] ドロップダウンリスト	<p>プロトコルまたはサービスを選択します。</p>
[Service] テーブル	<p>特定のプロトコルでオープンするアプリケーションサービス関連のポート番号を指定するには、これを選択する必要があります。現時点では、Cisco UCS Directors は http と https をサポートしています。</p> <p>(注) このオプションは、サービスを選択した場合に表示されません。</p> <p>サービスを追加するには、[+] アイコンをクリックし、サービステーブルにエントリを追加して、次のフィールドに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Operator] ドロップダウンリストから演算子を選択します。選択可能なオプションは、[Equals] および [Not equals] です。 • [Protocol] ドロップダウンリストから、プロトコルを選択します。 • [Service] ドロップダウンリストから、サービスを選択します。選択可能なオプションは、http および https です。 • [Port] フィールドに、アプリケーションサービス関連のポート番号を入力します。 • [Submit] をクリックして、ゾーン条件のリストにエントリを追加します。 <p>既存のサービスを編集または削除できます。</p>

名前	説明
[Any Protocol] チェックボックス	<p>ルールをすべてのプロトコルに適用するには、[Any] チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) このオプションは、プロトコルを選択した場合に表示されません。</p>
[Source Conditions] テーブル	<p>[+] アイコンをクリックし、送信元の条件テーブルにエントリを追加して、次のフィールドに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Attribute Type] ドロップダウンリストから、属性 [Network]、[VM]、または [Zone] を選択します。 • [Attribute Name] ドロップダウンリストから、名前を選択します。 • [Operator] ドロップダウンリストから、演算子 [Range]、[Equals]、[Not Equals]、[Prefixed by] または [Range] を選択します。 • [Attribute Value] フィールドに、対応する値を入力します。 • [Submit] をクリックして、ゾーン条件のリストにエントリを追加します。
[Destination Conditions] テーブル	<p>[+] アイコンをクリックし、送信先の条件テーブルにエントリを追加して、次のフィールドに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Attribute Type] ドロップダウンリストから、属性 [Network]、[VM]、または [Zone] を選択します。 • [Attribute Name] ドロップダウンリストから、名前を選択します。 • [Operator] ドロップダウンリストから、演算子 [Range]、[Equals]、[Not Equals]、[Prefixed by] または [Range] を選択します。 • [Attribute Value] フィールドに、対応する値を入力します。 • [Submit] をクリックして、ゾーン条件のリストにエントリを追加します。新しい ACL ルールは、ゾーン条件のリストに追加され、既存のリストの最後に追加されます。

ステップ 6 上矢印アイコンをクリックし、新しく作成した ACL ルールを昇順に移動します。

ステップ 7 [Submit] をクリックします。

ファイアウォール ACL ルールの編集

シスコ VACS を使用すると、既存の ACL ルールを削除できます。



- (注)
- 導入済みコンテナに対する既存のアクセス コントロール リスト (ACL) のルールを変更する場合は、次の手順を使用します。テンプレートのファイアウォール ACL のルールを変更するには、Physical > Network > Multi-Domain Manager > PNSC Accounts で利用可能な PNSC Firewall Policies タブを使用する必要があります。
 - [Help] リンクを使用すると、対応するオンライン ヘルプにアクセスできます。

-
- ステップ 1** メニュー バーで、Virtual Resource > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Firewall Policy] をクリックします。
[Edit Firewall] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [PNSC Firewall Specification] 画面に、ポリシーの名前と説明が表示されます。[Next] をクリックします。
[PNSC-ACL Rules] 画面が表示されます。
- ステップ 4** [PNSC-ACL Rules] 画面で、編集する PNSC ACL ルールを選択して、編集 (鉛筆) アイコンをクリックします。
[Edit Entry to PNSC ACL Rules] 画面が表示されます。
- ステップ 5** [Edit Entry to PNSC ACL Rules] 画面で、該当するフィールドを変更して、[submit] をクリックします。
- ステップ 6** 上矢印または下矢印アイコンをクリックして、変更した ACL ルールを昇順または降順に移動します。
- ステップ 7** [Submit] をクリックします。
-

ファイアウォール ACL ルールの削除

Cisco Virtual Application Cloud Segmentation (VACS) Services (シスコ VACS) を使用すると、既存の ACL ルールを削除できます。



- (注) [Help] リンクを使用すると、対応するオンライン ヘルプにアクセスできます。
-

-
- ステップ 1** メニュー バーで、Virtual Resource > Application Containers の順に選択します。
- ステップ 2** 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Firewall Policy] をクリックします。

[Edit Firewall] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [PNSC Firewall Specification] 画面に、ポリシーの名前と説明が表示されます。[Next] をクリックします。
[PNSC-ACL Rules] 画面が表示されます。

ステップ 4 [PNSC-ACL Rules] 画面で、[delete (x)] アイコンをクリックして既存の PNSC ACL ルールを削除します。
[Delete PNSC ACL Rules Entry] 確認ボックスが表示されます。

ステップ 5 [Submit] をクリックして、選択した PNSC ACL ルールを削除します。

アプリケーション コンテナの削除

Self-Service Portal を使用すると、導入済みのアプリケーション コンテナを削除できます。アプリケーション コンテナを削除すると、関連付けられたすべてのリソースが自動的に削除されます。



(注) [Delete Container] オプションは、管理者が付与した権限に基づいて利用可能になります。

ステップ 1 メニューバーで、Virtual Resources > Application Containers の順に選択します。

ステップ 2 該当するアプリケーション コンテナを選択して、[Delete Container] をクリックします。
削除を確認する [Delete Container] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 [Submit] をクリックして、削除を実行します。
[Submit] をクリックすると、ポップアップウィンドウが表示されます。ここには、ワークフローの進捗を追跡するために使用可能なサービス リクエスト番号が表示されます。

ステップ 4 (オプション) [Close] をクリックして、削除をキャンセルします。
(注) コンテナの削除ワークフローが失敗した場合は、コンテナ導入サービス リクエストをトレースし、'Rollback Request' を発行して、失敗した削除を完了/クリーンアップします。